

千葉市立誉田中学校 学校だより

誉田のかぜ

学校だよりはHPにも掲載してあります

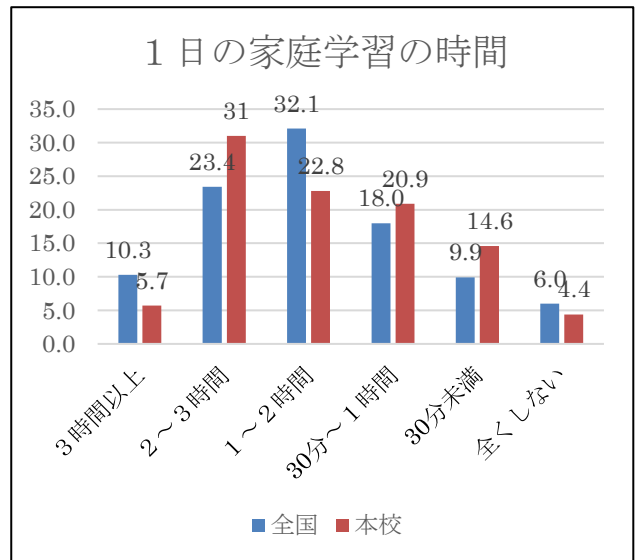
第11号
令和5年9月15日発行
千葉市立誉田中学校
Tel.291-0012

◆家庭学習の勧め◆

校長 北島 啓行

夏季休業明け第1週の2日間で、第2回定期テストを実施しました。夏休みの終わりから家庭でも試験対策を行っていたと思います。テスト結果については、各学年で返却されていますので、ご確認ください。

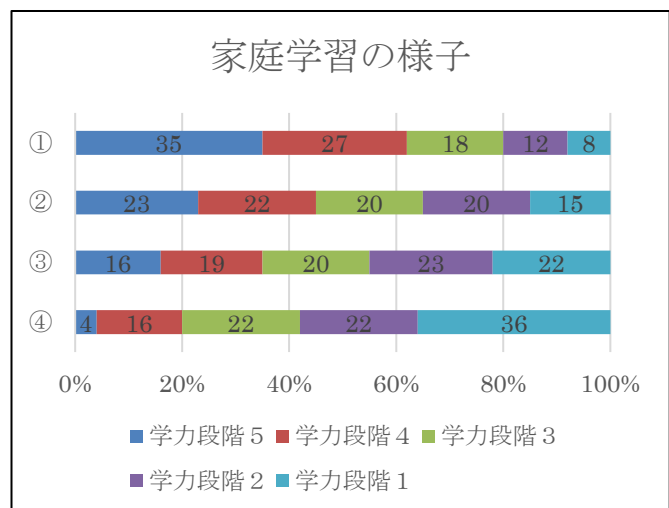
全国学力・学習状況調査の結果からも、家庭で学習している子どもほど正答率が高くなっています。右の図は、1日の家庭学習の時間の全国平均と本校との比較です。グラフから見てもわかる通り、本校の家庭時間は全国平均からすると少ないようです。子どもの学力を伸ばすには、テスト前だけではなく、学校での授業の充実に加え、家庭での生活習慣や学習しやすい環境づくりがとても大切になります。学校と家庭が連携し、主体的な学びを育て、家庭学習の習慣を図っていくことが必要です。



「主体的・対話的で深い学び」の視点からも、それをさらに補充・発展させるためにも、家庭での学習がとても大切になります。以下に、千葉市の学力状況調査・意識調査結果からも、学力と家庭学習の取組の状況に相関があることがわかります。

- ①宿題がなくても、ほとんど毎日する
- ②宿題がない時でも、時々する
- ③宿題がある時だけする
- ④宿題があっても、しないことが多い

学力を、調査結果の標準偏差をもとに、5つの段階に区切り、示しています。



家庭学習は、学校から出される予習・復習などの宿題と自分で課題を見つけ、必要感をもって取り組む自主的な学習があります。いずれも、授業と家庭学習の連続性を高め、学力の向上へ効果的に導くものとなります。

また、家庭学習の習慣や方法を身に付けることは、①子どもたちの主体的・自律的な態度を促すとともに、②生活時間の有効な使い方を身に付け、「自制心」や「粘り強くやり抜く力」などの育成につながり、③学ぶ事の楽しさを育むことにもなります。

また、家庭学習の習慣や方法を身に付けることは、①子どもたちの主体的・自律的な態度を促すとともに、②生活時間の有効な使い方を身に付け、「自制心」や「粘り強くやり抜く力」などの育成につながり、③学ぶ事の楽しさを育むことにもなります。

◆部長会長からのメッセージ◆

夏季休業が明け、部活動は1，2年生中心の活動に移行しました。全ての部活動で新部長が決まり、早くも新人戦がスタートしました。そこで、これまでの3年生の部長会長からメッセージをもらいました。

部活動に参加をしている生徒の皆さん、今年の総体やコンクールはどうだったでしょうか。3年生にとって、中学校での最後の夏でした。多くの部活動がいつも以上の熱意をもって練習に取り組んでいたと感じました。しかし、どんなに頑張っても、いつかは終わってしまいます。終わってしまったときには、悔しさや寂しさを感じました。この経験は、人生の中では通過点ではありますが、私は部活動を通して、苦しい時でも努力することの大切さと、それを乗り越えた自信を得ることができました。その気持ちや経験は、これからの自分次第で大きな財産に変わると思います。今は部活動を終えて、進路の時期を迎えています。3年生の皆さん、これからはこの壁にぶつかっていきましょう。1，2年生の皆さん、部長を中心に、誉田中の伝統を受け継ぎ、より良い部活動を作っていくてください。最後に、部長会長を1年間経験して、私自身成長できたことがありました。この経験ができて、本当に良かったです。いつもサポートしていただいた部長会や先生方、ありがとうございました。

部長会長

◆合唱コンクールにむけて◆ 今年も10月13日（金）開催です

今年の合唱コンクールのテーマは「天歌夢奏 ～響け歌声 呼べ感動～」です。今年も、新型コロナウイルス感染症も5類に移行し、3年ぶりに保護者参観ができることになりました。夏季休業が明け、各クラスで合唱コンクールに向けた練習がスタートしました。是非、校舎中に各クラスの歌声を響かせてほしいと思います。

<各クラスの自由曲>



	1年生	2年生	3年生
A組	ハンドベルの演奏（校歌）と夢の世界への合唱		
B組	COSMOS	友よ	ヒカリ
C組	大切なもの	モルダウ	群青
D組	怪獣のバラード	輝くために	結—ゆい—
E組	変わらないもの	あなたへ	友 ～旅立ちの時～
F組	旅立ちの時	時の旅人	YELL

◆ちょっとコラム◆

「花さき山」という民話があります。「誰も見ていなくとも、一つ良い行いをすると『花さき山』という山に美しい花が一つ咲く。良いことをする度に、『花さき山』は美しい花で満たされていくのだ。」というお話ですが、「花さき山」とは「自分の心」のことではないでしょうか。